

令和5年度(2023年度)金沢大学法科大学院入学試験問題

【D日程入試】法律専門科目試験

商法 出題の意図

問題1

株式会社における制度設計の基礎となる「所有と経営の分離」に関し、理解を問うものである。

所有と経営の分離については、出資者(株主)と経営者がそれぞれ特性を生かして事業に参加し、リターンを得ることができるという長所がある反面、経営者による権限濫用などにつき、必ずしも経営のプロではない出資者がチェックしきれないという構造的問題があることから、これをいかに克服するかが重要となり、そのため、会社法における各種規律(取締役会及び監査役による監視、役員の責任追及制度等)が重要となる点を理解していることが重要となる。

問題2

企業買収に対する防衛策に関する判例として有名な、いわゆる「ブルドックソース事件」(最高裁平成19年8月7日決定(民集61巻5号2215頁))を題材とした問題であり、株主総会の承認を得て発動した防衛策に関する適法性につき、一定の基準を示した当該判例を正確かつ十分に理解しているかを問うものである。特に株主平等の原則に正面から抵触するおそれがあることから、この点に関し、十分に理解していることが重要となる。